



# 神奈川・レスキューサポート・バイクネットワーク 会報第23号

## KANAGAWA Rescue Support Bike Network News

2005年1月1日号, No.23

### 第23号の目次

- 1、八ヶ岳便り ...中島信義
- 2、新潟県中越地震支援活動報告 ...太田隆行  
...尾崎徳久  
...後藤猛  
...沢田健介
- 3、ヨルダンより(2004.4.4) ...池田喜由
- 4、その他雑記  
編集後記

### 八ヶ岳よりRRBの皆さんへ

2004.12

中島 信義

2004年の活動を振り返って神奈川RRB草創期の副代表の中島さんより近況報告を兼ねた御寄稿を頂きました。中島さんは八ヶ岳にて救命救急ボランティアとして積極的な活動をされており物心両面で神奈川RRBの精神的支柱にもなっていて頂いております。以下中島さんのご寄稿を掲載します。(太田)



**左端が中島さん**  
以下寄稿文  
常にメーリングリスト等で神奈川RRBの活動状況を拝見しています。会員

個々人の熱いボランティア活動への思いのなかでの活動をたいへん嬉しく思っています。神奈川RRBにとって今年は様々な経験を重ねましたが厳然として皆さんの思いに立って運営され、社会的な評価と認知を着実に増じてきている事実は紛れもない事と確信しています。近くで常に一緒にいたいと思いますが私と神奈川RRBの遠隔地にありながらの関係もひとつの形と考え、有事の際には心をつなぐたいと念じています。

近況をお知らせします。

10月、11月は毎年恒例のボランティア月間でした。

3公立中学、高校の全校一斉長距離マラソン(距離:15km~35km

・標高差300m~500m)のバイク救護支援

八ヶ岳ロードレース(参加者3000名)での日赤バイク救護班

消防の応急手当普及員として救護指導

地元中・高教職員及び父兄への応急手当指導2件

地元レストラン社員への応急手当指導1件

柳生博さん経営の八ヶ岳倶楽部(年間来客数約数万人)社員へ。

救急救命士の協力を頂き、消防長と中島の指導員名で認定書を発行。その認定書No.1が柳生真吾さん(NHK趣味の園芸キャスタ)。

AED(体外式除細動器)の受講2回

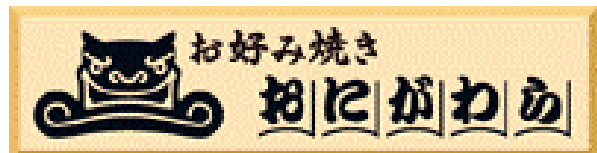
全国的に消防や日赤でのマニュアルはまだありませんが今年7月から一般の人でも緊急時に使用が可能となった携帯型の電気ショック器の使い方を地元救急救命士さんに本器を使い講習を受けました。来年には私もAEDの一般への講習会指導員の資格を得る予定です。

その他、本年の交通・滑落事故、農作業・建築中事故、山林火災など山特有の事故で救護支援出動20件(現場での実践的救護活動です)。

以上、お好み焼きの本業(?)の合間に高度な救急救護を目指して、また地元消防本部の優秀な救急救命士さん達の熱心なご指導と日赤・山梨、所轄警察とも連携を取りながら「いざ!!」という時の為のRスキルアップを計っています。山に来て5年、地元での特にバイクによるこのような活動は先の行政機関をはじめ、教育(学校関係)・福祉(社協など)関係者からは大きな関心を持って注目されています。

最後になりましたが神奈川RRBの多くの皆さんが中越地震災害に馳せ参じて活躍された事を感謝すると共に大変誇りに思っています。ことあるごとに、山でも神奈川RRBの活動をアピールしていますが全ての方から賞賛の声を頂いています。誇りです。

店は1月11日より3月23日まで冬期休業になります。今年は17日前後に震災時、学生時代お世話になって亡くなられた方のご家族や直後に見舞った10軒の知人、友人宅を当時と同じルートで慰霊のために宝塚から西宮・東灘・神戸・鷹取までの約30kmを徒歩又は、赤バイでたどる予定です。



## 新潟県中越地震支援活動報告

2004.10-12

太田 隆行



去る10月23日新潟県中越地区を襲った震災報道は日を経るごとにその被害のすさまじさを増していきました。神奈川RBでは直後より近隣R

Bや自治体から情報収集を行い10月27日に役員召集の臨時ミーティングを催し支援活動について協議しました。余震の収まらぬ中、RBとしての支援活動は余震収束の頃合及び被災地ボランティアセンターでの受入状況から判断する事とし各々が活動する事としました。実際は翌週より個人活動でボランティアに参加したメンバーも多かったが11月3日よりRBの活動として記録も押さえる事となりました。以降は杉野、後藤、辻谷始め多くのメンバーが小千谷、川口地区を中心に支援活動を行いました。支援に参加したメンバーは後方支援も含め18名、延べ日数は60日以上になった。各自の経験が個別に報告されその後の支援活動にも活かされたことで活動の質も上がっていったと考えています。今年も未だ支援活動は必要と思われるが2004年の支援活動については上記の通り報告します。以下メンバーからの報告です。

尾崎 徳久



11/11~14 小千谷VCにて参加しました！日別にて活動報告申し上げます。

11/11 晴れのち曇り 予想以上に暖かった！VCにエントリー時間 8:45 エキジット時間 16:45 道路状況:六日町IC - 長岡IC間(上り・下り)一車線規制 朝・夕 50km規制するため警視庁の車輛

が

先導走行 小千谷出口は渋滞 ボランティア参加環境状況:初めて行く際に 暖かくスタッフが迎え入れてもらい新規の参加登録に だいぶ迷ったが 登録完了! 活動報告:9:30より16:00まで小千谷市民会館入口付近(敷地内)にて自衛隊設営の仮設浴場の受付・管理等のニーズ(一般ボラ)に参加させてもらいました。1人20分と言う割振時間になってました。が昼間の入浴者は予約の割りに来客者が少なく高齢者中心で風呂上りの心地よい笑顔で 感謝されると共に心温まる思いになれました。その他気になった点・気づいた点:予想以上に道路が復旧しており びっくりしました。

11/12 雨

VCにエントリー時間9:00 エキジット時間19:30 道路状況:前日の関越に一車線規制が 一部緩和され 50km規制は変わりませんが 混雑

もなく スムーズな倉走行環境でした。但し 舗装したばかりのせいかな?路面灯ないせいかな? 実に路面の濡れで 車線が見難いと感じた。ボランティア参加環境状況:小千谷市最南端の岩沢まで紙おむつ・掃除・洗濯用品・乳児用スポーツドリンク・リクエスト用品が欠品が実際に目立つ! ニーズ先に 欠品報告するのは実に心痛んだ! バイクニーズが 事前に聞いてたが実はない! 今は ニーズも一般ボラの一部として独立してないそうだな... 今日 新潟RBの方に会いバイク隊は川口・小千谷・長岡を統合あい小千谷を拠点に活動を思案中と言われてました。活動報告:朝 VC登録後 バイク隊は一般ボラと別に待機スペースがあることが判った。午前中は一般ボラにニーズと兼任待ちをしたがなく VCの清掃・来者へ出すみかんの振分などし午後から一般ボラのニーズを見つけ飲料会社の散乱した空瓶処理を 12:00~16:00 までVCも戻ったら バイク隊にニーズが入る乳児の紙おむつ・ミルク・幼児用スポーツドリンク・雨具など岩沢まで4台編制届ける 16:30~19:00 その他気づいた点:動くときに暑い! 朝夕のみ 防寒対応を!

11/13 雨一時晴れ

VCにエントリー時間9:40 エキジット時間18:00 道路状況:小千谷・六日町上り 夜一車線規制工事が活発になり渋滞を感じた。ボランティア参加環境状況:小千谷入り予定だった今日横浜参加者が みんな川口に移動と来て残念だったが本日参加したら杉野さんが 赤十字としてVCにいた! 優しい笑顔で迎えてもらい実にうれしかったです。いろいろアドバイス頂いたり 甘えてしまいました! 本当に! 感謝! 活動報告:VC発行のパンフレットを各避難所(市指定のみ)を小千谷市内全域に2名2組で近隣用・近隣以外を振分配布... 実に市指定以外の独自の避難者・グループには避難物資・情報が流れない! 市管理の避難物資は 登録避難所には 必要手続きを すれば 回される 失礼な言い方ではあるが 目の前で苦しんでる人がいて書類に規定次項を書いたら助ける! といわれているように 残念だ!

11/14 曇り

VCにエントリー時間9:20 エキジット時間12:30 道路状況:日曜のせいかな? 午前中 一般道路は空いていた。関越道は 50km規制で 一時渋滞! 帰宅に向け 16:30 川口PAより上り上里SAからは渋滞 練馬までボランティア参加環境状況 :昨日からバイク隊へのVC本部の気持ちがちよっと変わったのか? 依頼が増える! ニーズではないが 被災現地状況の話題相談やなど いいコミュニケーションが見えた。活動報告:小千谷WWWの写真は現在 災害状況をげけ崩れなどの写真を 復興・復旧への活動写真の撮影を 2名2組で街中へ調査のニーズと共に 前日配布した VCパンフが好評で追加配布にニーズが入った。ボランティアの活動で笑顔を見せてくれるおばあちゃんの笑顔の被写体は実によかった! しかし...きれいに写せたか? 不安。



**最後に 小千谷のみなさんに感謝とエールを!**

尾崎さんはサンタボランティアでひげを伸ばしているそうです。(お)

## 後藤 猛



### 1. 活動の概要

- 1) 第1回【10/30】  
【但し、神奈川RB出勤決定前のため個人的活動（同行者；太田さん）  
・活動地域；十日町市内  
・交通手段；バイク

ク CRM250AR

・活動内容； ボランティアニーズ調査 小川の石垣撤去作業  
民家の石垣撤去作業

2) 第2回【11/6, 7】(同行者；太田さん、井上さん、原田さん、村井さん)

・活動地域；小千谷市近郊

・交通手段；バイク CRM250AR

・活動内容； バイク隊による物資搬送作業（11/6） 風呂の受付係（11/7AM） 救援物資の引越し作業（11/7PM）

3) 第3回【12/10~12】

・活動地域；川口町（田麦山地区、牛ヶ島）

・交通手段；バス（横浜YMCA主催ボランティアバスに参加）

・活動内容； 田麦山地区での給水活動（12/11） 牛ヶ島産廃処分場での廃材分別作業（12/12）

### 2. 活動内容詳細

1) 第1回【10/30】十日町

前日に関越自動車道が小出まで開通し、六日町 IC から十日町に入る。六日町では目立った被害は無く、十日町市内も一部の家屋に半壊以上の被害があったものの、表向きは大きな被害は少ないようにも見受けられましたが、実際活動を行って見ると 傾いた家屋や散乱した墓石など震災の爪痕を各所で見受けられ、日常生活を完全に取り戻すまでに戻るまでには長き時間を要する事を感じました。しかし、十日町は関東地域から入り易いこともあり、既に多くのボランティアが終結しており、また、当初予定していたバイクボラのニーズはないため、今後神奈川 RB としては別の地域で活動するべきと判断し、終日一般ボランティアとして活動した後、帰路につく。

2) 第2回【11/6, 7】小千谷市

神奈川RBとして正式に小千谷市で活動する事が決まり、先に現地入りしていたメンバーも含め、同時・同地域で活動する人数としては今回最高の6名で活動を行いました。このとき、震災から2週間が経過し急ピッチで道路の修復作業が進められていたものの、市内いたる所で陥落した道路や突起したマンホール等被害の痕がまだ多く残っており、震災の規模を改めて感じさせられました。初日はバイク隊に登録するも、ここでもバイクボラのニーズが収束しつつある事を実感する事になりました。一日の多くを待ち時間で費やし、結局夕方近くになって初めてバイク隊全体での物資搬送作業に参加するのみで初日の活動を終えました。

二日目は前日の反省から、一般ボラに登録し上記の活動を行いました。一般ボラと言っても、バイクという機動性に富んだ自走手

段をもった RB は非常に有効で、他のボランティアから敬遠される地域へ率先して行ける事こそ、「RBらしい」と感じました。

3) 第3回【12/10~12】川口町

11月中旬をもって神奈川 RB として「バイクでの活動を終了する。」との決定を受け、横浜YMCA主催のボランティアバス（第3陣）に参加しました。現地入りして最初感じた点は、川口町でもボランティアの数が大分減り、町の中心部では復旧作業も後半の段階に入った様子にも見えました。しかし、初日活動した田麦山地区は集落の約9割が重度半壊以上の被害を受けた場所で、今なお倒壊したままの家屋が非常に多く、震災直後から時間が止まったかの錯覚さを感じました。この日は、各家庭に給水活動を行う業務を行いました。避難所生活を嫌って傾いた家や物置、廃材で作られた私設「仮設住宅」に暮らす住民が非常に多く、胸を痛めました。様々な問題があったと思いますが、仮設住宅が完成したのは、震災から実に48日目。被災者に長期に亘りプライバシーの無い難所生活を強いることは無理です。行政の怠慢とは思いたくありませんが、被災者に苦痛を強いた事実は消せません。二日目は牛ヶ島の産廃処分場で、川口町内各地から集められた廃材の分別作業を行いました。廃材のほとんどは倒壊した家屋の残骸で、一見無味乾燥としたゴミも、震災前までは家の壁であり、屋根であり、きっと家族の温もりを包んでいたことでしょう。そんな事を思いながら作業をしておりました。

### 3. RBやバイクボランティアについて思うこと

今回の活動では、「バイクを使った仕事」のニーズは震災後2週間程度で収束に向かったものの、バイクを機動性に富んだ「移動手段」と考えるとそのニーズは非常に大きいと感じました。各VCでは一般のボランティアを輸送するための車両班がありましたが、ボランティアの数に対して不足傾向があり、道路事情などから十分な輸送ができない時期もありました。一般の方々がバイクで移動することには抵抗を感じますが、日頃訓練を積み「自己責任」を自覚できるRB隊員なら何ら問題は無いと思います。RBだからといってバイクを使った仕事に固執するべきではなく、バイクが無くても我々は訓練を積んだボランティアであることを自覚したいと思います。



### 4. 所感・忘れ得ぬできごと

今思えば、震災直後からあつと言う間に時間が過ぎた様に感じます。実際に被災された方々や大事な人を亡くされた方にとっては、完全に時間が

止まったままの状態だと思います。一方で、ニュースでも中越地方の事は殆ど聞かれなくなり、世間の関心も急速に薄れ行くことを感じます。そんな中、中越地方で出会った幾つかの忘れ得ぬできごとを紹介します。

1) 田麦山のおじさん。「今度こんな家になるんだ」と、家の設計図を満面の笑みで見せてくれたおじさん。全壊した家の跡に復

興の兆しを見ました。

2) 田麦山のおばさん。給水活動を行っていた私に「ごくろうさん、お茶飲んでいきんさい」と声を掛けてくれたおばさん。自分が飲む水にも困るはずなのに、社交辞令ではないおばさんのそのやさしい言葉に胸が熱くなりました。

3) 牛ヶ島のぬいぐるみ。雑多ゴミの分別作業を行っていた時のこと。ゴミの中には印し書かれたカレンダーやノートなど、日常生活が突然崩壊した痕が生々しく残されていました。そんな中に小さな可愛いぬいぐるみを見つけた時は本当に切なかつたです。その持ち主は幼い女の子のようですが、彼女が今なお元気であることを願っております。



## 5. 最後に

今回の活動を通して、実に多くの事を学ぶことができました。一つだけ言えることは、人は、強くもあり、もろくもあり、そしてとても優しいものなのですね。

また、全国から集まってきたボランティアの若者たちを見てみると、この国の未来も決して暗いものではないように思えてきます。震災に遭われた方々の真の復興を心よりお祈り致します。

以上、穏やかな冬晴れの日に記す。

## 沢田 健介



10月23日に新潟県中越地方で震度6強の地震が発生したことを知ったときは、色々な思いが頭の中を駆け巡った。中越地方の中核都市である

長岡市には自分の出身大学があるため、学生時代にお世話になった人が多数被災地に住んでいたからだ。また、震源地といわれた川口町は、私が幼少時代に父の仕事の都合で1年間住んだことがある思い出の地でもあった。地震発生から数日間はマスコミによる報道の他、インターネットで被災地在住者やその関係者の安否や住宅・職場の被災状況の情報収集を行った。幸い私や私の周囲の人に人的な被害は無いことがわかったが、地震がもたらした甚大な被害は数年の復興期間を要することはすぐに想像がついた。迷うことなく災害ボランティアとして被災地入りをする決意をする。しかし大震災の直後に被災地に近づくことは95年の阪神大震災の教訓から避けるべきとの判断と、二次災害を起こさないための十分な装備を用意するための準備期間を設けたために震災後初めて被災地に入ることが出来たのは11月6日だった。迷わず被害が大きく思い出の土地でもあった川口町に行った。川口町では割れた路面や崩れた崖、倒壊した住宅や崩壊した住宅に

よって押しつぶされたままの自動車、そしてひどく心に傷を負った住民の姿を見ることになった。とにかくやれることをやれるだけやって、住民の方に一日でも早く笑顔を取り戻して欲しいと思った。以下、私の川口町VCにおける活動記録である。

11月6日：(庶務現場隊活動班 & 食担)

自家用車(キャラバン)で現地入りしていた私は、この日の昼間は活動班として自分の車を使って3人1組で西川口地区川口中学校の避難所への水の運搬を行った。ちょうどこの日は天皇皇后両陛下がこの避難所を訪れる予定があり、避難所の周辺は警備とマスコミの中継車でごった返していた。

夕方からは食担(ボランティアのための炊き出しを担当する班)に入り、その日の夕食と翌7日の朝食を担当する。この日の夕食のメニューは鶏肉とブロッコリーが入ったクリームシチューで、ボランティアセンタ(以下 VC)開設以来食担のリーダーをやっていたTさんという女性に聞いた話では、それまではおにぎりやスイートンなど、質素なメニューばかりだったそうで、初めての豪華メニューとのことだった。このシチューは7人のボランティアが大阪から車で届けてくれたもので、なんと日帰りでやってきたとのことだった。遠路はるばる届けてくれた人々の思いを感じた。食担の夜は遅く、毎夜23時頃まで他の班のスタッフなどを交えて情報交換や議論に熱が入っているようだ。この夜は、北海道・埼玉・大阪・佐賀から来たというボランティア達と語り、皆の熱い思いを感じた。

11月7日：(庶務現場隊ニーズ班)

この日は町内各所に存在する避難所の位置と数、そしてそこに非難している町民のニーズを調査する班で活動を行った。再び自分の車を使って東京から来たという高校生のT君と一緒に町の南部にある八郎場地区と和南津地区、それに町の北部(山間部)にある木沢小学校の避難所を回った。活動班リーダーのGさんによると避難所と一口にいても自宅の車庫に一~二世帯の家族が非難している小さな避難所から学校の体育館などの大きな規模の避難所が町内に無数にあり、誰もその正確な数と位置を把握出来ていないとのことだった。そのため、町役場からの支援物資や情報が十分に行き渡っていない避難所がある可能性があり、そうした人たちのニーズ調査を行うことが目的だった。八郎場では、建築士による家屋の危険度調査が完了しておらず困っている人がおり、和南津地区では、余所者のボランティアを嫌っているのか、被災のためあまりに気が立っているためか、挨拶程度の声をかけただけでも身構えて警戒する被災者の方などがいた。木沢小学校では届けられた果物などの生鮮食品が腐りはじめるほど山積されており、少し持ち帰ってくれないかなどといったニーズまであった。

11月13日：(活動隊)

栃木県から来ていたマッサージ師団体の皆さんが避難所に出張マッサージに行くため、マッサージに使う器材・ベッドの運搬およびマッサージ師の方の送迎を行った。この日は相川地区のサンウッド避難所での出張マッサージと、魚野川河川敷にある自衛隊風呂(通称松戸の湯)前にあるマッサージ分院および本部にあるマッサージ本院での養生ボード貼りなどの作業を行った。マッサ

ージ本院および分院には関西の大学のヨット部員が5名ほど来ており、チームワークの良さがマッサージ師の先生方に好評だった。

11月14日：(活動隊)

VC近くの西川口地区で私を含めて5名のチームで活動を行った。活動内容は、地震による地割れのため崩れそうな崖に立っている木の伐採と、地割れ部分へのブルーシート張り、飛散したガラスやモルタルの破片拾いと、おばあさんの話し相手というものだった。チームは、名古屋から来たというリーダーNさんと、京都から来たという大学生3人。Nさんは活動のベテランらしく、うまくチームをまとめていた。ガラスやモルタルを土嚢袋に入れる作業は難なくこなしたが、肝心のブルーシートを張るためには崖っ淵に立っている巨木を切り倒さなくてはならない。はじめは私の手持ち工具にあったナタで木の幹を叩き(叩くという表現がびったり来る状況だった)頑張っていたがどうにも効率が悪い。仕方がないのでこれまた私の手持ち工具にあった電動ドリルに木工用のホルソー(30mm径)を装着し穴を何箇所も開けて作業を進める作戦に出たが、それをやっているうちに崖の下に住む人が状況を察してチェーンソーを貸してくれた。有難かった。道具なら何でも使いこなす私である。チェーンソーのおかげで一気に作業を片付けることが出来た。小雨まじりのこの日、全員泥だらけになってVCに帰還したが、仕事をやり遂げることが出来たためか皆晴れ晴れとした顔つきだった。

11月28日：(元気もりもり隊のはずが...やっぱり活動隊)

本業のため前回の活動から二週間経過しての活動だった。この日は「元気もりもり隊」という、子供達と遊ぶ隊に入れてもらった。元気もりもり隊は、以前は「のびのび隊」という名のグループだったが、お年寄りの支援を行う「まごころ隊」と合体して「もりもり隊」という名のグループになっていた。行き先は以前にも行った相川地区のサンウッド。チームは3人で、サンウッドのもりもり隊での活動が四日目というリーダーのKさんと地元六日町から来たという主婦のSさんが一緒だった。ここではこんなこともあろうかと持ち歩いていた日本地図のバズルが役に立った。バズルに興味を示してくれた中学生の女の子やんちゃ盛りの小学生の男の子とはすぐに仲良くなれたが、その他五人位の子とはなかなかコミュニケーションがとれず苦勞する。そうこうしていると、VCの相川支所のリーダーWさん(この方とは以前に食担でも一緒になっていた)から私に声がかかり、近くの牛ヶ島の民家の作業で人手が足りないから応援に行ってほしいとのこと。国道17号沿いにあるその民家にすぐに行ってみると、東京農工大の学生という三名が歩道の上で崩れたブロック塀をハンマーで粉砕していた。作業内容は地震で倒れたブロック塀の撤去で、その方法は、ブロックをハンマーで粉砕して土嚢袋に詰め、同じ牛ヶ島地区にある産業廃棄物処理プラントに運ぶというものだった。粉砕時にドブの側溝に落ちたブロックの破片なども拾い集めて2時間ほどで作業を行い、4台の軽トラックでプラントに運び、プラントで分別作業と袋から瓦礫を出して瓦礫の山にぶちまけるという作業を行った。非常に疲れたが妙に動きのいい農工大生のおかげで早く作業を終えることが出来た。サンウッドに戻っ

て再びもりもり隊に合流するがすぐに活動終了時間の15時30分になってしまった。16時からのミーティングの後、Sさんから、「遠くから来ていただいてありがとうございます。これから中越地方のことをよろしく願います」と頭を下げられてしまい、恐縮した。

12月11日：(車両班)

この日は「車両班」に入ることになった。「車両班」は、震災直後から各地のRBが主体となって活動を行っていた「バイク隊」が解散した後に、その役務を四輪車によって引き継いでいた班で、物流やボランティアの送迎を担当している班だ。実は前の週の12月5日に私は神奈川RBの運営ミーティングに初参加し神奈川RBのお仲間に入れていただけたばかりで、いわばRBとしての初活動がこの車両班での活動となった。

配属になって10分後にリーダーのHさんから35人乗りの中型バスによるボランティアさんの送迎を依頼される。何度か活動隊で行ったことがある相川地区と牛ヶ島地区の巡回コースだったことと、Hさんが道案内の助手として乗り組んでくれたため、無難に廻ることができた。その後、ひっきりなしにかかってくる活動隊やもりもり隊からの電話に対応するHさんからの指示で、5名の車両班のドライバーが入れ替わり立ち代り出動する。この日は主に中型バスの担当だった。後で聞いた話では、このバスはかなり癖が強く、運転しにくいいため、誰も運転をしたがらなかったのだそうだ。確かにブレーキペダルがかなり重く、ギアが入りにくい車で、ダブルクラッチならぬトリプルクラッチやイタリア車のような往復レバー操作をしないとギアが入らないことがあった。しかし活動班で活動をしていたときに自家用車で川口町内を縦横に走り回っていたおかげで、知らない道が無かったことが役に立った。

12月12日：(車両班)

引き続き車両班で活動を行う。Hさんの見事な電話対応と配車のおかげで、少ない待ち時間と短い移動時間でボランティアさんの送迎を次々とこなす。前日に神奈川RBの後藤さんが川口町VCで作業を行っているという情報を得ていたおかげで、後藤さんともお会いすることが出来た。後藤さんは牛ヶ島のプラントで瓦礫の仕分け作業を行われていたとのこと。偶然だが後藤さんが牛ヶ島のプラントからVCに帰るバスのハンドルを私が握ることになった。Hさんは、地元魚沼市(旧広神村)の方で、ご自身も被災者であるにも関わらず、かれこれ三週間以上川口町でボランティア活動を行われていた。その暖かい人柄とコンピュータのように正確で的確な判断のおかげで車両班の活動が支えられていた。再び来ることを約束して川口町を後にした。

12月18日：(車両班)

リピーターの車両班ボランティアである大阪のOさんと東京のTさんと愛知のKさんにリーダーHさん、それに埼玉から来たというKさんや湯沢町の社協の方を加え、万全の体制で配車の準備が整っていたが、この日はトラック輸送の需要が多く、また、ボランティアさんの人数も少なかったため、送迎を担当していた私にはあまり出番が無かった。ボランティアのニーズが減ってきたということでもあり、被災者の立場から考えると喜ばしいことで

ある。

12月19日：(車両班)

この日は武道窪地区の泉水小学校で餅つき大会が開催されたため、車両班の仕事としては、朝夕に大人数の送迎があった他は、時折少ない人数の送迎とトラックの貸し出しが発生しただけだった。この日は「川口町ぬくもり荘」からのVC本部機能の移転日でもあり、この作業を手伝うことになった。川口町ぬくもり荘は20日から本来の業務を再開することになっており、これまで活動場所を借りていたVCの本部は、ボランティアの受付と車両班の機能を除いて、近くのプレハブに移転した。

以上が私の12月19日までの活動の報告です。川口町災害ボランティアセンターは12月20日に川口町復興ボランティアセンターに改称され、数年を要するといわれている町の復興を支援していく予定だそうです。私は今後もRB隊員として、またVCでの活動を通じて知り合ったボランティアの方たちと共に、個人的にも継続して可能な支援を行っていく予定です。

## ヨルダン2004年

2004.12.13

池田 喜由

巻頭の中島さんに続きヨルダンの「林蔵」こと池田喜由副代表よりも寄稿を頂きました。池田さんは昨年(2004年)春より海外技術支援隊としてヨルダンにて活動を行っていますがその暮らし振りの一端をレポートして頂きました。(太田)



### 以下寄稿文

皆さん、ご無沙汰しています。相模原市の池田です。こんな僻地に居ながら会員であることを甘んじさせてくださるKRBに感謝しています。当地では残念ながら、白バイ以外バイクは一般道を走れません。今回は我々の活動には殆ど関係ないことですが、ヨルダン生活事情等を紹介したいと思います。小生ことある事情から2004年4月からヨルダン国アンマンにあります王立科学院で、「電気検査と品質」に関する指導を2年間の予定で行っています。「王立科学院」と言うのは学校ではなく、当国の産業振興育成の為に1970年に設立された王立の研究開発機関です。小生の所属する「電気サービス&訓練センター」は主に輸出入の電気製品に関する、安全・性能面の試験を行います。検査対象製品は、輸出品は余り無く、殆どは輸入品です。輸入先は圧倒的に中国が多く当国に輸入される中国製電気製品の品質は、日本に輸入さ

れる中国製品のそれとは格段に低いものが多く見られます。中国製品でも品質の高いものはそれなりに値段が高く、当国では売れ難いのが主たる原因であろうと思われます。

仕事のことはさて置き、此方での生活面の四方山を若干紹介したいと思います。首都に住むと何処の国に住んでもそれなりの生活レベルが得られ、普段接しているような品々も殆ど手に入りますが、やはり異文化の中に居ることを幾つかの場面で感じます。

交通事情：車社会です。ベンツやBMWの高級車が多いのに驚きます。タクシーが多い。此方の人は殆ど歩かない。直ぐタクシーに乗ります。道を歩いていると空のタクシーはピーピーとクラクションを鳴らし(乗れと言う合図)で、とてもうるさい。タクシーは安く初乗り20円位。土地の人は買い物等に重宝していますが、小生はピーピーうるさくても健康の為歩いています。車優先です。歩道橋はありません。横断歩道が有っても車はスピードを緩めません。車の合間を縫って命がけて道路を渡ります。運転は荒い。急発進、急停車、急カーブ、方向指示器無しの右左折、割り込みは当たり前。外国人と見るとメーターを倒さないで走る運転手も居るので要注意。遠距離(行楽地へのピクニック等)は交渉で値段が決まる。運転手は親切なところもある、大概は中国人かと言われるが、日本人と判ると、食いかのサンドイッチを差し出して、「食うか」と言ってきたりする。

お祈り：イスラム社会です。1日5回のお祈りは欠かせません。お祈り



の時間には、そこいらじゅうにあるモスクのスピーカーから大音響でお祈りの呼びかけ(アザーン)が響き渡ります。朝夜明け前、太陽が真上に来た時、午後太陽が45度の時、日

没、夜10時頃の5回です。従って時間は季節により少しずつ変わります。仕事場で働いている大学出のエンジニア達も、この時間になると職場の適当な場所に設けられたお祈り場へいそいそと行き、皆と一緒に祈りをします。その時どうしても手を離せない者は、手が空いた時、一人で職場の片隅でお祈りを始めます。この宗教的習慣は我々神に対する畏敬の薄い民族には、いや比較的強いキリスト教徒でも一寸入り込めない尊厳なものが漂う時空です。

パーティ：お酒は出ません。結婚式、祝賀会、歓送迎会、昇進祝い、如何なるパーティもお酒は出ません。お茶と珈琲と甘いケーキにアルギーラ(水タバコ)で延々と話は続きます。此方の人は話がとても好きです。お酒無しで話は止め処も無く続きます。

喫茶店：因みに居酒屋は当然在りませんが、カフェは多くあります。大抵は



アルギーラ(水タバコ)を置いてあり、仕事が終わった後、気の合う者と優雅に水タバコをふかしながら時間を過ごしています。席は家族席と男性席に分かれています。女性達だけの場合は(女性が単独で歩くことはありません。)家族席に入ります。だから我々単身男性は何時も男性席にしか入れません。実につまらない。

マラソン: 死海マラソン、紅海マラソン、アンマンマラソンと多彩です。国王のお妃ラニアさんが後援する神経障害者教会が全てを主催しています。死海マラソンや紅海マラソンにはスペイン等外国からも多くのランナーがやって来る国際大会です。此方の女性は全身衣に包んだ姿で走ります。それでも小生より早い。小生はとんでもなく遅いランナーです。

## 忘年会報告

2004.12

太田 隆行

12月9日中越地震支援の最中ではあるが南部地区メンバーを中心に忘年会を行った。横浜、神奈川県民活動サポートセンター近くの居酒屋にて10名ほどが集まり2004年の活動の反省会を兼ねて大いに飲み、語り合った。仕事の話あり、家庭の話あり、これから家庭を築く人の話もありで盛り上がった。震災での支援活動の中で顔の見える関係の大切さを実感していたメンバーには息抜きと言えども大切な時間でした。

[その他のイベント]

運営ミーティング 11/7、12/5

臨時ミーティング 10/27

ボランティアのための救護法研修会・10/19、11/16、12/21

..!!お知らせ!!..

神奈川県民活動サポートセンターサイト開設中

<http://k.excite.co.jp/hp/u/krpkrb/>

(i-mode/vodafone/EZweb の各形式対応)

## 編集後記

2005年が参りました。台風や地震で大損害の我国でしたが今年は安全な良い年になって欲しいものです。

訓練中心の数年からいきなり実戦に出ましたがメンバー間の情報のやり取りが有効に機能し有意義な活動が出来たのではと感じています。2005年も引き続き支援活動が予測されますが元気に、健康に、真摯に取り組ましよう。

ところで冬のツーリングは如何でしょう?私は酷暑の夏より着込めば暖かい冬の方が快適に思います。年末にグリップヒーターを装備したし寒中ツーリングが楽しみです。何より冬は美味しいものがいっぱいあります。ふぐにあんこう。鍋物も良いですね。今年の夏は震災から復旧した新潟に「へぎ蕎麦」でも食べに行きたいですね。(お)

## 神奈川県民活動サポートセンター

代表:坂本篤哉、事務局長:手塚則生

郵送先:〒221 0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2

かながわ県民活動サポートセンターレターケース No.81

Fax:045-312-1862(取次ぎ:レターケース No.81 宛て)

URL: <http://www2.airnet.ne.jp/krb/>

バイクによる災害時救援活動支援ボランティア

神奈川県民活動サポートセンター・バイクネットワーク会報(年4回発行)

発行者:神奈川県民活動サポートセンター 太田隆行

神奈川県民活動サポートセンター発行にあたりまして、お好み焼き「おにがわら」様のご支援を頂いております。みんなで行きましょう!

!! 年明けは1/11~3/23まで冬季休業。 !!



関西風・広島風 お好み焼き おにがわら

店主:中島信義 山梨県北巨摩郡大泉村 Tel:0551-38-4030

JR小海線甲斐大泉駅北約1.5km・ダイヤモンド八ヶ岳ホテル前

夏季(7・8月) 11:30~14:30、17:30~20:30(火・水定休、祝日は営業) 上記以外の期間 11:30~14:30、17:00~20:00(火・水定休)

「おにがわら」では新メニューを用意して皆様のお出でをお待ちしています。

念の為営業を確認の上お出かけください。